

滋賀・柳遺跡



(京都東北部)

- 1 所在地 滋賀県草津市青地町字水回瀬
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12)四月～二〇〇一年二月
- 3 発掘機関 (財)滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 平井美典
- 5 遺跡の種類 集落跡・水田跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～室町時代
- 7 遺跡および木簡出土遺構の概要

柳遺跡は、典型的な天井川である草津川の左岸冲積地に位置する。河川改修に伴い、一一三三五〇m²を調査した。

検出遺構には弥生時代後期～終末期の旧河道・方形周溝墓、鎌倉時代前期の掘立柱建物・井戸・土壙墓、鎌倉時代前期から室町時代の水田などがある。水田遺構は調査地周辺から西方向の琵琶湖に向けてひろがる栗太郡統一条里地割にのる

もので、一三世紀中頃の開田と考えている。水田面は二面検出され、下二枚の田面上には洪水砂の堆積がみられる。洪水により一時期放棄された後に耕作土および畦畔の復旧がなされている。

木簡は最下面の水田耕作土を覆う洪水砂の最下部から一四点出土した。洪水砂は厚い部分で10cm程を測り、包含されていた信楽甕や土師皿の年代観から一四世紀末頃の堆積と推測される。水田の表面にあつた木簡が洪水で埋ったのか、洪水によつて他所から流されてきたのかは不明であるが、木簡の出土地点にある程度まとまりがみられることからすると、遠方から流れできたとは考えにくい。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ×最上第一希有之法若是經典所 (198)×13×0.5 019
- (2) □不及一百千万億分〔分力〕 (168)×13×0.5 019
- (3) 「須菩提於意云何可以二十二相觀如來不 (181)×13×0.5 019
- (4) ×心如來悉知何 (117)×13×0.5 019
- (5) □須菩提實無有法仏得〔提力〕 (137)×14×0.5 019
- (6) 「般若波羅蜜經乃至四句偈等受持誦誦為」 246×13×0.5 011

2001年出土の木簡

(7)	「説但凡夫之人貧……□□」	(83+132)×12×0.5 011
(8)	「有法眼須菩提於意云何如來×	(138)×13×0.5 019
(9)	×藐二菩提」	(144)×14×0.5 019
(10)	□須菩提凡夫	(72)×12×0.5 081
(11)	×緣得福□□	(63)×13×0.5 081
(12)	「千万億劫□□□□	(108)×13×0.5 019
(13)	耶如來有所說法耶須菩	(112)×(10)×0.5 081
(14)	×藐二菩提」	(135)×13×0.5 019

出土木簡はすべて柿経である。極目に剥ぎ取った桧の薄板で、頭部を圭頭状にした短冊形につくる。幅約一・三mm厚さ約〇・五mmで、長さは完形の(6)で一四・六mmある。

内容は『金剛般若波羅蜜經』である。経文は片面のみに書写され、書体は同一である。全文が残る(6)は一七文字が配される。

(平井美典)

